

# 令和4年度 シラバス (福祉)

学番 56 県立八海高等学校

教科	福祉	単位数	2	学年 (コース)	2 学年 (普通科福祉コース)
使用教科書	『社会福祉基礎』 実教出版				
副教材等					

## 1 学習目標

社会福祉に関する基礎的、基本的な知識を習得し、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解し、社会福祉の充実・向上を図る能力と態度を向上させる

## 2 指導の重点

- ①身近な題材や資料、体験などをもとに、社会福祉に関する興味・関心を育てます。
- ②人権尊重、権利擁護、ノーマライゼーション、自立生活運動などについて学び、社会福祉の意義や役割に関する理解を深めます。
- ③自分の感じ方・考え方をみつめ、他者との違いや共通点、自分らしさを模索しながら、人と向き合う姿勢を大切にできるように学んでいきます。

## 3 学習計画

月	単元名	主要学習領域	学習活動	時間	評価方法
4	社会福祉基礎を学ぶにあたって	・福祉とは	・社会福祉のイメージをみつめる ・福祉を学ぶ上で大切にしたいこと	4	定期考査
		・ボランティア活動について	・ボランティア活動での心構えについて		
5	社会福祉の理念と意義	・高齢者福祉施設とは	・見学実習に向けた学習 (目標説明・施設の概要) ・実習後の振り返り	7	
		・生活と福祉	・少子高齢化と人口減少に向かう日本 ・産業と地域社会の変化 ・家族と働き方の変化 ・疾病構造の変化 ・人の一生と社会福祉		
6		・社会福祉の理念	・現代の福祉理念 ・日本国憲法と社会福祉 ・地域生活と社会福祉	8	
		・人間の尊厳と新たな福祉社会の創造	・人間としての尊厳 ・自立生活支援 ・新たな福祉社会の構築に向けて		
7 8 9 10	人間関係とコミュニケーション	・コミュニケーションの基礎	・コミュニケーションの意義と役割 ・コミュニケーションの手段と方法	9	
		・支援における人間関係の形成	・傾聴・受容・共感の姿勢 ・利用者理解と援助者の自己理解	8	
		・社会福祉における支援活動の概要	・個人に対する支援活動とその方法 ・グループや家族に対する支援活動とその方法 ・地域を基盤としたソーシャルワーク ・チームワークとリーダーシップ ・福祉・介護人材の養成とキャリア形成	5	
11	社会福祉の歴史と次代の展望	・諸外国における社会福祉	・社会福祉の歴史 ・イギリス、アメリカにおける社会福祉の発展 ・北欧の社会福祉 (スウェーデン・デンマーク) ・ヨーロッパ大陸諸国の社会保障 (ドイツ・フランス) ・アジアの少子高齢化と社会福祉の課題	5	
		・日本における社会福祉	・近代社会福祉の黎明期 ・社会事業の成立と発展 ・戦時厚生事業による福祉対策 ・戦後対策としての社会福祉の構築 ・高度経済成長期と社会保障、社会福祉の拡充 ・新世紀に向けた福祉改革と介護保険制度の導入 ・子ども・家庭支援のさらなる充実をめざして ・障害者福祉のさらなる充実をめざして ・次代に向けた新たな社会福祉の挑戦	3	ノート (ファイル)
12	地域福祉の進展と多様な社会的支援制度	・多様な社会支援制度	・医療提供体制のしくみ ・特別支援教育の制度 ・特別支援教育の実際 ・司法と福祉の連携 ・権利擁護と成年後見制度	2	
		・地域福祉の進展と地域の将来	・つながりの再構築と社会福祉の役割 ・地域社会とボランティア ・非営利組織の活動 ・福祉のまちづくりと地域社会 ・新時代に向けた社会福祉	2	
1 2 3	生活を支える社会福祉・社会保障制度	・子ども家庭福祉	・少子化時代の子ども子育て支援 ・児童相談所と市町村の役割 ・子ども支援と保育 ・子どものすこやかな成長に向けて ・子どもの貧困とひとり親家庭の福祉 ・社会的養護と児童虐待への対応 ・障害のある子どもの福祉 ・子どもの権利と子ども家庭福祉	11	

## 4 課題・提出物

随時出される課題、レポートなど

## 5 評価基準と評価方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
・社会福祉に関心を持ち、高齢者、障害者、児童福祉に関する福祉の意義や理念を理解する態度を身に付けている。	・現代の社会福祉に対して思考する力を身に付け、適切に判断し、表現している。	・社会福祉の諸問題や理念について、身近なことから結びつけて考え、必要な情報を得て整理し、発表している。	・社会福祉の基礎的、基本的知識を身に付け、福祉従事者としてのあり方を理解している。 ・福祉の担い手としての自覚を表現している。

## 6 担当者から一言

「福祉」は、誰もがより豊かに生きるためにどんなことができるかということを考える教科です。そのために、人間とは何か、人生とは何か、幸せとは何かを考えます。答えは人の数だけあり、探し続けるものでもあるため、はっきりとした答えはありません。自分の気持ちや考えを書いたり、発表したりする活動の中で、一人一人の感じ方や考え方の多様さ、大切さを学んでほしいと思います。